

徒長させない中苗育苗法

1 試験のねらい

本県の中南部の二毛作地帯では、麦跡水稻の出穂期の遅れが収量の不安定さを招いており、3.5～4葉前後の中苗移植を推進しているが、従来普及に移した育苗法では徒長しやすく、実際には3葉程度の“半”中苗を移植している場合が多い。そこで、徒長させない中苗育苗法について検討し、再度中苗移植の推進を図る。

2 試験方法

試験は昭和61、62年の2カ年実施し、育苗箱の設置場所、設置方法、播種量、追肥量などを中心に検討した。試験場所は農業試験場育苗ハウス、品種はコシヒカリを用いて5月20日に播種し、播種後34日に育苗を完了し調査した。播種量は昭和61年は乾籾で箱当たり100gと130gの2段階、昭和62年は100gとした。施肥量は箱当たり窒素0.8g、リン酸4g、加里3gを基肥として施用し、追肥は播種後20日に箱当たり窒素1gと2g（昭和61年）、及び1gと0.5g（昭和62年）の2段階とした。育苗箱の設置場所は育苗ハウス内と露地の2段階、設置方法はビニルプール、ビニルシートにベタ置き、箱下に角材を敷き箱を浮かす方法の3段階とした。

3 試験結果及び考察

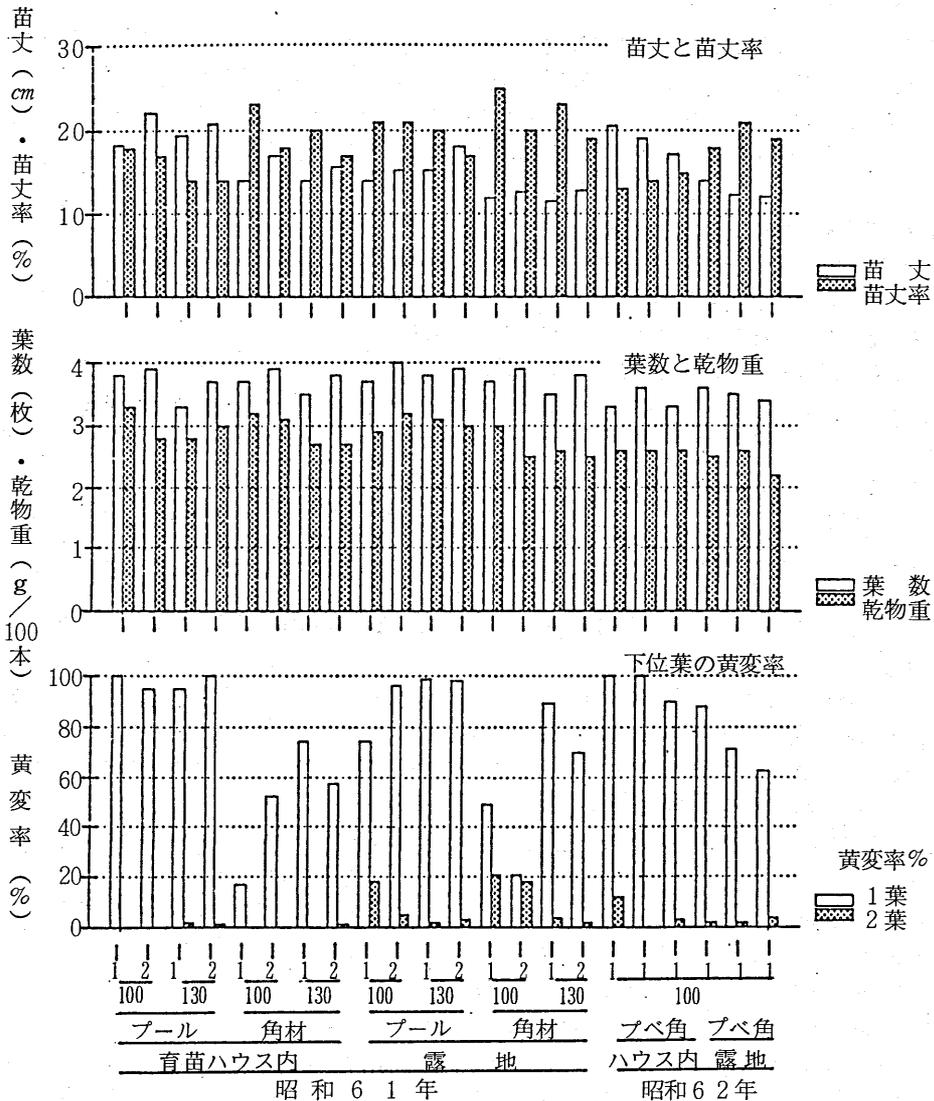
試験結果から、徒長させないで中苗を育苗するための以下のような目安を得た。

- (1) 播種期は5月上～下旬で、育苗期間は35日前後とする。
- (2) 播種量は箱当たり100～130gとするが、播種量は少ない方が葉数が多く、乾物重が重く苗丈率も高い。また第1葉の黄変率も少なくなる。
- (3) 基肥窒素は箱当たり0.8g程度とし、播種後20日前後に窒素1～2gの追肥を施用する。リン酸、カリは従来通りとする（黒ボク土で P_2O_5 4g、 K_2O 3g）。追肥窒素は生育量、葉色に応じて1～2gの範囲内で増減する。追肥窒素量を多くすると、苗丈が長くなり、苗丈率が低下する。
- (4) 育苗箱の設置場所及び設置方法は、育苗ハウス内に設置する場合、育苗箱の下に角材等を敷いて箱が浮くように設置する。露地に設置する場合は、ビニルプール育苗か、ビニルを敷いた上にベタ置きする。育苗ハウス内でビニルプール育苗にすると徒長しすぎ、露地で箱下に角材等を敷くと生育が不足し、葉数展開も遅れる。育苗ハウス内でビニルの上にベタ置きしても可能であるが、灌水は控え目にする。
- (5) 以上の育苗方法によって、苗丈12～17cm、葉数3.5～4.0、乾物重3g/100本前後の中苗が得られる。育苗ハウス内で育苗したり、ビニルプール育苗は第1葉の黄変率がやや高い。また、露地で育苗した方が苗丈率は高い。

育苗ハウス内で育苗する場合は、育苗ハウスの側面の被覆をはずす。また箱下に角材等を敷く場合は乾燥に注意する。さらにビニル上に育苗箱をベタ置きする場合は、滞水しないようにフォーク等で穴を開けておくと良い。

4 成果の要約

- (1) 徒長させないで中苗を育苗する方法を検討した。
- (2) 施肥量（基肥）は従来通りで良いが、育苗ハウス内に育苗箱を設置する場合は、箱下に角材を敷いて箱を浮かすか、ビニルを敷いて箱をベタ置きする。露地に設置する場合は、ビニルプール育苗か、ビニル上にベタ置きすると徒長しない中苗が得られる。
- (3) 追肥は、播種後20日頃に、生育量や葉色に応じて1～2gの範囲内で増減する。



注. 播種5月20～22日, 苗調査6月24～25日(播種後34日)
 プ、プール: ビニルプール育苗, ベ: ビニルシートにベタ置き
 角、角材: 箱下に角材を敷き箱を浮かす。追肥: 播種後20日

図-1 中苗の苗調査結果

(担当者 作物部 山口 正篤・青木岳央)